

パンタナール通信

南北米福地開発協会 会報 2004年4月1日 第7号

地球に優しく

自然を大切に

地球は私達の庭園、大事に大切にしていきたいと思います。当協会では本部事務局、研修センターでの研修を毎月行うと共に、地方においても研修を行っています。名古屋においては名古屋支部主催（支部責任者 東森教）で三月二十日、名古屋事務局にて1日研修会を飯野事務局長を迎えて開催しました。参加者は三十六名でした。また、四月十七日、大分、十八日には久留米、四月二十五日、大宮にて飯野事務局長を迎えて一日研修会を行う事が決まっています。

今まで研修会に参加した方は一様に環境問題を深刻に捉え、今後積極的に会の活動に参加していきたいと感想を述べていました。地球を大切にすることが如何に大事であるかを青年達にも伝え、世代を超え、民族の境を超えて考え、行動する時に来ています。研修会と共に今四月二十四日から五月八日までパンタナールエコツアーが出發します。参加希望者は事務局に連絡してください。又、当協会の趣旨に賛同し、三月には新規で七十名の方が会員になってくださいました。私達の住む美しい地球を住み易い庭園にしていきたいと思います。

南北米福地開発協会事務局

東京都渋谷区神宮前六・十九・十四

神宮前ハッピービル十階

電話〇三・五七七四・〇五四四

神山会長一年ぶり帰国
帰国報告会(三月六・七日)



本部事務局にて役員会議
(三月六日)



帰国報告会(三月七日)
宮崎台国際研修センター



パンタナール国際研修センター



技術指導中



理想牧場建設を目指して

パンタナール、レタでの活動報告



牧場の柵を作るインディ
ヒナの労働者と共に



朝6時半労働の開始前の
点呼と一日の計画発表



観光農場、整地され牧草
を蒔く直前(ラタイ牧場)

神山会長報告抜粋(三月七日)
「鳥取の大学の遠山先生、歳をとってから中国のゴビ砂漠に行つて、そこでポプラの木を植林し、森が出来上がりました。何度も何度も豪雨で流され、しかし、森を造り、そこに作物が出来るまでにしました。日本から五〇〇〇名から六〇〇〇名のボランティアが行き、成し遂げました。それをみて感動しました。九十五歳です。そのビデオのなかで「諦めない、やらなきゃ出来ない。やるんだ。」と書いていました。
「座つて机の上では出来ない。やれば出来る。やらなければ出来ない。」私は彼の叫びに胸を打たれました。まだ自分は六十二歳ではないか。南米の雑木の生えているところを整理しながら、立派な木を植える。そして、立派な森を造るといふ闘志が出てきました。そういう気持ちなので若さを保っているんだと思います。ある人が私が白髪なので染めたらどうかといいますが、染めると同情してくれないからしないと云っているんです。そのビデオテープは、プロジェクトXの番組で、彼は中国の砂漠に森を造り、私は南米の荒地に木を植えて森にする。彼はポプラの木、私は南米の貴重な木を植えていく。南米に生える木は立派な木です。ケブラッチョという木は建材として百年も持つという優れた木です。水に置けばその木が沈んでしまう程、重くて硬い木です。家具にも最適です。そんな木を植えてみたいんです。それは現地の努力と共に、もちろん皆さんの援助がなければできません。今、その地を開拓するに当たって環境庁から許可を得ようとしています。それでその場所に理想牧場を作ろうとしています。」